

平成24年度共同研究の概要（成果報告書抜粋）

研究種目：研究集会

研究代表者：大槻 恭一（九州大学東アジア環境研究機構・教授）

研究分担者：笠原 玉青（九州大学農学研究院・准教授）、山本 福壽（鳥取大学農学部・教授）、立石 麻紀子（鳥取大学乾燥地研究センター・研究員）、香口 成美（鳥取大学農学部・修士2年）

研究題目（和文）：

乾燥地における森林と水の関わり

研究概要（和文）：

国際会議では、6セッション（A：水質および炭素隔離、B：生態水文過程、C：半乾燥-乾燥地における森林と水、D：森林と大気間の水・CO₂の交換、E：森林流域における水土保持、F：持続可能な森林水資源のための革新的な技術とシステム）を設け、情報交換・討論および学術交流を行った。初日（9月18日）は、6セッションに関わる世界で活躍する研究者6名（米国：W. Brutsaert 博士、米国：J. Vose 博士、韓国：J. Kim 博士、スウェーデン：K. Bishop 博士、中国：Y. Wang 博士、日本・恩田裕一博士）を講師とする公開基調講演6課題を開催した。2日目（9月19日）はA～Dの4セッションに関わる口頭発表（31件）、ポスター発表（34件）を開催する共に、気候・気象学に関する公開基調講演2課題（米国：H. Diaz 博士、米国：T. Giambelluca 博士）を開催した。3日目（9月20日）にはE、Fの2セッションに関わる口頭発表（23件）、ポスター発表（38件）を開催すると共に、流域生態水文に関する公開基調講演2課題（オーストラリア：L. Zhang 博士、日本：中村太士博士）を開催した。最後に閉会セッションを開催し、6セッションの座長が各セッションの議論を紹介すると共に、今後の展望に関して議論され、さらなる情報交換と学術交流を行う事が決められた。

乾燥地に関わるCセッションでは、2名の招待講演者（メキシコ：Israel Cantú-Silva 博士、日本：山中典和博士）を招待し、世界の関連研究者が集い、白熱した議論が交わされた。2日目の会議終了後には、乾燥地関連研究者が集い、さらなる議論が交わされ、交流が深められた。